

シンポジウム名	海洋空間利用シンポジウム2010			
開催期間	平成22年 2月26日から平成22年 2月27日まで			
開催場所	会場名：日本大学理工学部 駿河台校舎 1号館 CSTホール 開催地：東京			
参加者数	87人+80人（高校生）（内訳 学外者115名，学内者 55名）			
連携学部	理工学部，生物資源科学部，工学部，生産工学部			
メンバー構成	氏名	所属・資格	学位	役割
	増田光一	理工学部・教授	工学博士	総括
	畔柳昭雄	理工学部・教授	工学博士	意匠系取りまとめ
	広海十朗	生物資源科学部・教授	農学博士	生物・水産取りまとめ
	出村克宜	工学部・教授	工学博士	材料科学系取りまとめ
	西宮伸幸	理工学部・教授	工学博士	エネルギーシステム取りまとめ
	日秋俊彦	生産工学部・教授	工学博士	環境材料取りまとめ
	遠山岳史 居駒知樹	理工学部・専任講師 理工学部・専任講師	博士（工学） 博士（工学）	炭素利用技術取りまとめ 事務局，海洋エネルギー
シンポジウム・学術講演会等の概要				
プログラムを参照。				
シンポジウム・学術講演会等が及ぼした効果				
<p>当シンポジウムでは，外務省のアジア大洋州局大洋州課と独立行政法人国際協力機構の大洋州課の全面的なバックアップを得ることができた。まずは，学生を含む学内関係者や海洋工学，土木工学関連の技術者をはじめ，建築意匠や計画を専門とする一般の方に，地球環境問題と島嶼国の現状の実際を理解してもらえたと考える。島国であることは日本もどうようであることから，地球環境問題の解決策や対応策を考える上で，周辺の海を如何に有効に利用する必要があるか，また海洋環境を同時に考慮する必要があるのかを認識して頂けたと考える。</p> <p>海洋環境や海洋空間利用技術を中心とする海洋工学分野が，世間一般では決して認知度が高いとはいえないが，今回のシンポジウムによりそれらの重要性を示せたのではないかと。</p>				

当該研究及び研究グループの今後の見通し

当該シンポジウム開催にあたり、外務省やJICAとのコネクションができた。本部助成金による平成22年度予算において、大洋州の島嶼国現地調査が含まれているが、その訪問にあたり、外務省とJICAの全面的なバックアップを頂けることになった。視察が困難な地域であることから、この協力体制は非常に意味が大きい。

さらに、海洋空間利用、海洋物理環境利用の2つの側面から、研究の具体的な発展性が議論された。構造物利用や水産技術という側面だけでなく、新材料開発のための海洋利用ということで、広い分野の専門家が直接的に海洋の利用に携われる状況となった。生産工学部、理工学部 of 化学系の教員との連携研究が具体的に促進されると思われる。

浮体開発関係では、本シンポジウムの協力団体であるNPO法人地球倶楽部ネットワークと連携して、木造浮体技術開発と森林保護を関連させた研究がスタートする可能性が大である。